開催地名：沖縄県宜野湾市	
開催日時	令和 5 年 1 月 15 日（日）　10：00　～　11：30
開催場所	宜野湾市中央公民館
語り部	菅原　康雄　（宮城県仙台市）
参加者	自主防災組織、防災士、指定避難所施設管理者、市役所職員　74 名
開催経緯	当市では、沖縄県に来襲する台風の特徴をもとに、大きな被害をもたらすおそれがある台風の経路及び中心気圧（最低中心気圧 870hPa）を想定した場合、西海岸一帯が波浪と高潮による浸水区域となることが予測されている。 また令和 3 年度において、自主防災組織が全自治会に結成され、防災倉庫等資機材のハード整備が概ね完了しているが、訓練や研修等のソフト整備が進んでおらず、防災組織の育成促進が課題となっている。
内容	（１）福住町町内会の取り組み 福住町町内会は仙台市宮城野区の中央に位置し、428 世帯 1,162 人からなる。福住町の防災・減災に対する取組は、住民全員参加による災害応急対策の訓練と災害時の復旧、復興の支援である。平成 15 年に自主管理マニュアルを作成、その後 2 か月で全住民の名簿を完成させ、防火・防災訓練を強化した。この取組は平成 16 年、19 年と続いた新潟県中越地震、中越沖地震、さらには 20 年の岩手宮城内陸地震に生かされ、複数回に渡って物資・義援金等の支援に繋がった。 我々は、自分の身は自身で守るというスタンスを基本として活動している。具体的には、実際の被害を想定した「訓練」と、地域での「協力体制の整備」の 2 本柱で取り組んでいる。特に「協力体制の整備」については、日頃の挨拶にはじまり、顔見知りになっていくことから始めている。そうすることによって、色々な町内会が相互に協力してくれるようになってきたと言える。そして、続いて紹介したいのが「名簿作り」である。この名簿こそが我々福住町の徹底した防災対策の根幹をなすものとなっている。名簿の中に落とし込むのは住所、氏名、電話番号、勤務先、緊急連絡先、動物（ペット）の有無といった項目で、これを毎年 1 度行う防災訓練の前に更新している。もちろん町内の全員が賛同してくれる訳ではないので、「個人情報保護法」を遵守しつつ作成をしている。それでも町内の約 8 割は賛同してくれるので、大災害時の安否確認の時には非常に役立った。従って、「プライバシーの侵害」のデメリットに目を向けるよりも、多くの賛同者を含んだ名簿の作成というのは非常に重要であり、有益なことだと考えている。 もう一つの柱である「訓練」については、お祭りの中に組み込む等の工夫をして、参加しやすい環境を作る必要がある。通常の「防災訓練」だと、一般の方々の参加はあまり見込めない。そうなると、行政職員や消防関係者の方々だけの緊張感のない、形式的な「防災訓練」となってしまい、あまり効果を見込めないものとなる。「防災訓練」を地域のお祭りやイベントなどと一緒に実施することによって、お年寄りから幼児まで幅広い層の参加者が見込め、ひいては、地域全体で「協力体制」を取れるようなシステム作りにつながって行くようになる。（先程挙げた「名簿作り」への協力体制が築きやすくなるという一面も合わせ持つ）

	（２）発災時に感じたこと 　毎年厳しく繰り返される防火・防災訓練による効果は、東日本大震災直後の行動に顕著に表れて、発災後 30 分で重要支援者の安否確認を完了し、集会所への避難住民誘導、仮設トイレ・瓦礫置き場、ガス・水道のライフライン等を設置させた。避難所設営では、空気の読める顔見知りの人が中心となって進めるとうまくいく。そして運営面では、女性が男性より優位と認識されているコミュニケーション能力や、多方面に気付きを得られる能力が必要となる。福住町町内会では、執行部役員 41 人中 23 人が女性である。 　事前に災害時相互協力協定を締結していた全国 4 団体（現在 14 団体）から届けられた支援物資は、順次津波で打撃を受けた遠方の 109 箇所に送り届け、支援させていただいた。近々の新型感染症の予防対策については、周知されている予防の他に、福住町では在宅避難を奨励している。 （３）今後の課題と心構え 　顧みて思うことは、災害発生直後に急を要することと一段落した後では、支援の有り様が変化するのは当然であるということだ。一段落した後の支援として、過去の被災地ではメンタルヘルスケアとして動物ふれあいの場を設けて実践したり、綿あめ機やジャイアントパンダのはく製を持参して子どもたちに喜んでもらった。この町から一人の犠牲者も出さない、全員が結束すれば、どこよりも隣人に優しい住みよい町になることを請い、皆様の参考になれば嬉しい。 　最後に是非実践していただきたい言葉をお伝えしたい。「止むことのない災害に強い危機管理意識を持って、自分が助かるすべを真摯に検証し、たったひとつの大切な命を守りぬく強固な意志を貫くことである」
開催地より	本日の講演をふまえ、本町では避難所におけるトイレが災害時に不足することを考え、仮設トイレを提供できる協定先の検討や、避難所外にて避難する住民に対して家庭備蓄を推奨する必要があると考える。また、防災訓練の参加者の増加を目指し、地域のお祭りやイベントと同時開催するなど、今後の開催方法の見直しを検討していきたい。